

許可取り消し求め 住民らが市を提訴

平針里山開発

名古屋市天白区の里山について、同市名東区の不動産会社「シールズ」が申請した開発計画を許可したのは違法だとして、里山の周辺住民らが3日、市を相手取り、開発許可を取り消すよう求める訴えを名古屋地裁に起こした。

訴状などによると、問題の里山は、天白区平針の約5畝。シールズが購入し、昨年4月、開発許可を申請した。市は緑地を保全するため、当初は許可を出さず、土地の買い取り交渉を約半年間続けたが、価格が折り合わずに断念。同12月、開発許可を出した。原告側は

「シールズは住宅分譲地にするとして開発許可を申請していたが、実際は私立小学校の建設を予定していた。申請は虚偽で、開発許可は都市計画法に違反する」などと主張している。

提訴を受け、河村市長は読売新聞などの取材に対し、「『里山』は生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）のスローガンで、平針の里山は今でも残したいと思っている」と話した。